

海老名市長 内野まさるの 継続、発展、安心・安全プラン 《抜粋版》

- 1. 海老名駅東西一体のまちづくり (1 面参照)**
- 2. 将来を担う子どもたちが生き生き育つまちづくり**
 - ◇待機児童の解消に向け、南部・中部・北部に民間を含めて、保育園の増設を進めます。
 - ◇子育て支援センターの地域版設置を進めます。
 - ◇中学校 3 年生までの小児医療費助成を継続します。
- 3. 誰もが安心して暮らせるまちづくり**
 - ◇特別養護老人施設の増設をします。
 - ◇人間ドック受診者に対する助成を充実します。
 - ◇健康寿命を延ばすため、検診の助成を継続し、内容の充実を進めます。
- 4. 安心・安全なまちづくり**
 - ◇防犯カメラの設置を進め、犯罪のない地域づくりを進めます
 - ◇地震時に火災を防ぐため、耐震ブレイカーの設置を進めます。
 - ◇防災備蓄品については、食糧、水、薬剤などの備蓄を継続、充実します。
 - ◇丘陵市街地での災害用水確保について検討を行います。
- 5. 地域が元気、地域力アップのまちづくり**
 - ◇地域を総点検し、きめ細かに対応し、地域計画づくりを進めます。
 - ◇地域の特性を生かしたイベントなどに助成を検討します。
- 6. 地域経済の活性化と成長のまちづくり**
 - ◇地域商業の活性化を図るため、「にぎわい条例」を策定します。
 - ◇商工会議所と連携し、プレミアム商品券の検証を行い、効果ある地元商店券の取り組みを進めます。
- 7. 自然と環境にやさしいまちづくり**
 - ◇省エネと CO2(二酸化炭素)削減のため、すべての公共施設の照明を LED 化します。
 - ◇「空家・空地適正管理の条例」の制定を実行効果あるものにするために、全力で取り組みます。
- 8. 心ふれあうスポーツ・文化のまちづくり**
 - ◇2019 年ラグビーワールドカップ、2020 年東京オリンピック・パラリンピックの事前キャンプの誘致活動を展開します。
- 9. かがやき持続総合戦略における〈地方再生まちづくり〉**
 - ◇一市民 1 スポーツに親しむ活動を推奨し、地域組織が行うイベントを支援します。
 - ◇学生が住む街に向けて、施策を検討します。
- 10. 持続可能な都市経営によるまちづくり**
 - ◇各種イベント事業のあり方の見直しをおこないます。
 - ◇公共施設再編計画を策定をします。

待機児童の解消を目指して

中新田保育園 10 月から 上河内保育園 来年 4 月から 新規増へ

中新田保育園は、中部の待機児童解消のために、敷地内・隣接に、増改築を行ってきました。この完成により、60名の定員増が図られます。

市有地の土地賃貸借で協議が整わなかった「さくら愛子園」が廃園となったことを受け、今年 4 月から公立の上河内保育園として運営し、在園児の受け入れを行ってまいりました。このたび、民間所有であった土地及び建物が市に移管されたことから、安定的な運営が可能となりました。来年度より新規園児受け入れが始まります。(定員は 60 名から 120 名へ)

これにより、社家地区の民間保育園増員と合わせて、南部、中部地域の待機児童解消につながります。



中新田保育園西棟

リニューアル図書館に 多くの皆さんが来館



新しい図書館が、スタートしました。

会館から 7 日間で、来館者は 2 万 2 千を超え、市民の皆さんの関心が高いことが数字を見ても明らかです。

来館者の世代も、ファミリーでキッズライブラリーにというように幅広い世代の方々が利用しております。

図書館の運営は、指定管理者制度で、CCC と TRC の民間二社が担っておりますが、教育委員会では、今後は、利用者の声、自動車文庫の代替えなどを検討してまいります。

図書の見直しについても、市民の皆さんに誤解されないようにしてまいります



海老名市の財政

県内 16 市の中で

すべての指標でトップ級

将来世代の負担も圧倒的に少ない

税金の収入構成も自立性(自主財源比率)が高く、将来起きるであろう借金返済「将来負担率」は県内 16 市の中で最も低い位置にいます。海老名市は、「やっていけない」と悪宣伝していますが、どの数値をみても健全財政を堅持しつつ、行政経営にまい進しています。

少ない市債(借金)残高、市民一人当たり県内最少

表中の「市債(借金)残高」は約 401 億円です。他市との比較は人口比で比べると、市民一人当たり県内 16 市の平均借入金約 47 万円、海老名市は約 29 万円で 16 市の中で最も少ないのです。**福祉・インフラ整備に積極的に投資し、かつ健全財政を堅持しています**

10 年間の財政を比較しました。表のように収入を安定的に確保しつつ、社会保障・福祉費多い「扶助費」、生活上のインフラ「普通建設事業費」に重点的に支出しています。「市債(借入金)残高」は減少し、健全財政を堅持しています。

10 年前と今の財政状況の比較

[決算額]	平成 16 年度		平成 26 年度		増 減
	平成 16 年度	平成 26 年度	平成 26 年度	増 減	
歳入決算額	347 億円	440 億円	440 億円	+93 億円	
うち市税収入額	193 億円	214 億円	214 億円	+21 億円	
歳出決算額	327 億円	423 億円	423 億円	+96 億円	
うち人件費	74 億円	70 億円	70 億円	▲ 4 億円	
うち扶助費	38 億円	90 億円	90 億円	+52 億円	
うち普通建設事業費	44 億円	89 億円	89 億円	+45 億円	
基金残高	55 億円	53 億円	53 億円	▲ 2 億円	
市債残高(一般+下水道)	408 億円	401 億円	401 億円	▲ 7 億円	

後ろ向きのキャンペーンから何も生まれない! 未来志向で建設的な政策議論を願う

「市債を乱発して思いつきの施策、ムダ遣いを行っている海老名の行政」としてはいますが、間違った情報で宣伝し、市民に誤解を与えるのは、厳に慎むべきです。

市長選挙のたびに繰り返される選挙戦術「ネガティブキャンペーン」は、本場アメリカでは不毛の議論とされ、下火といわれています。私たちは、正確な情報を提供し、かつ自らの政策を発表し、公開の場で議論し、市民の審判に委ねる、良識ある政治団体としての活動を行います。

前向きで、フェアプレーの精神で「海老名の未来について政策議論」を切望します。